

角 遠足のバス分数で繋がりぬ

角 助詞があり助動詞があり地虫出づ

角 参道の芽吹きたちまち踏まれたる

角 情熱も少し暑さに弱くとも

角 万葉の子孫百葉箱の夏

角 冷奴に葱と醤油や無位無冠

角 ゆふぐれの唄こうもりの子守唄

角 兄弟の大手を振つて天高し

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 遠足のバスに分数表記あり

角 参道の芽吹たちまち踏まれけり

角 情熱の少し暑さに弱くとも

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 冷奴に醤油垂らして無位無冠

角 天高し大手を振って行くべかり

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 難しき漢字は苦手カキフライ

2024・11・16【角川俳句賞2025 A 703 全77句】選12句

12行3段組14ポ  
2024年11月16日 17:20  
桐10

角 参道の芽吹たちまち踏まれけり

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 日に水に砂に機械に時の日よ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 天高し大手を振つて足上げて

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024・11・18【角川俳句賞2025 A 704 全84句】選24句

12行3段組14ポ  
2024年11月18日 18:40  
へ1 へ桐10

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 中元のタオルそのまま年を越す

角 立ち眩む如く西日の沈みゆく

角 紫も清も遊びし双六と

角 山火事に超然たるや大瀑布

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 日に水に砂に機械に時の日よ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 天高し大手を振つて足上げて

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 みんな家中電気で動く冬籠

2024・11・20【角川俳句賞2025 A 705 全94句】選24句

12行3段組14ポ 2024年11月20日 21:00 へ1 へ桐10

角 制服や中高一貫校の春 角 シャクシャクと水の硬さよ梨嚙る

角 情熱や多少暑さに弱くとも 角 男爵に出世の薯ぞ目出度けれ

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 中心は取り込み中の南瓜かな

角 広島も長崎も炎天下なり 角 檻々に動物園の息白し

角 立ち眩む如く西日の沈みゆく 角 みんな家中電気で動く冬籠

角 山火事に超然たるや大瀑布 角 湯豆腐や葱も生姜も花かつを

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 日に水に砂に機械に時の日よ 角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 初紅葉やも水底の一二枚

角 天高し大手を振つて足上げて 角 中元のタオルそのまま年を越す

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ 角 紫も清も遊びし双六と

角 里は丸く山は長しよ芋の秋 角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024・11・21【角川俳句賞2025 A 706 全98句】選22句

12行3段組14ボ  
2024年11月21日 06:55  
へ1 へ桐10

角 制服や中高一貫校の春 角 中心は混線中の南瓜かな

角 情熱や多少暑さに弱くとも 角 檻々に動物園の息白し

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 みんな家中電気で動く冬籠

角 広島も長崎も炎天下なり 角 湯豆腐や葱も生姜も鰹節も

角 山火事に超然たるや大瀑布 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 初紅葉やも水底の一二枚

角 天高し大手を振つて足上げて 角 中元のタオルそのまま年を越す

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ 角 紫も清も遊びし双六と

角 里は丸く山は長しよ芋の秋 角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 シャクシャクと水の結晶梨囃る

角 男爵に出世の薯ぞ目出度けれ

2024・11・22【角川俳句賞2025 A 707 全130句】 選28句

12行3段組14ボ 2024年11月22日 18:05 へ1 へ桐10

角 制服の中高一貫校の春

角 中心の混沌たりし南瓜かな

角 雑草の高々枯れて植木鉢

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 二三枚水に沈みし初紅葉

角 中元のタオルそのまま年を越す

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 竹林の一番端の寒さかな

角 紫も清も遊びし双六と

角 広島も長崎も炎天下なり

角 石投げて古池を割る寒さかな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 山火事に拘りの無き大瀑布

角 植木鉢春の出番を待つてゐる

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 檻ごとに動物達の息白し

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 檻に毛ものの檻の外には毛皮人

角 天高し大手を振つて眉上げて

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 湯豆腐や葱も生姜も鰹節も

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 葱、生姜、辛子、鰹節湯豆腐屋

角 シャクシヤクと水の結晶梨噛る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

2024・11・23【角川俳句賞2025 A 708 全150句】 選28句

12行3段組14ボ 2024年11月23日 18:42 へ1 へ桐10

角 制服の中高一貫校の春

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 紫も清も遊びし双六と

角 柏餅の柏は食はず残しけり

角 中心の混沌たりし南瓜かな

角 汗かいて道をつけけり雪の朝

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 編集の加減乗除や文化祭

角 炭屋消え炭団も失せて雪達磨

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 石投げて古池を割る寒さかな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 檻ごとに動物達の白き息

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 天高し大手を振って眉上げて

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットを年用意

角 制服の中高一貫校の春

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 紫も清も遊びし双六と

角 餅食うて柏あまれり柏餅

角 中心の混沌たりし南瓜かな

角 汗かいて道をつけけり雪の朝

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 編集の加減乗除や文化祭

角 炭屋消え炭団も失せて雪達磨

角 情熱や暑さに多少弱くとも

角 石投げて古池割るる寒さかな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 檻ごとに動物達の白き息

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の任を解かれて墓洗ふ

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 天高し大手を振つて眉上げて

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 シャクシヤクと水の結晶梨噛る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

2024・11・24【角川俳句賞2025 A 710 全179句】 選29句

12行3段組14ボ 2024年11月24日 21:42 へ1 桐10

|                  |                     |                 |
|------------------|---------------------|-----------------|
| 角 制服の中高一貫校の春     | 角 男爵の出世目出度し薯の秋      | 角 中元のタオルセットよ年用意 |
| 角 餅食うて柏あまれり柏餅    | 角 中心の種の混沌たる南瓜       | 角 紫も清も遊びし双六ぞ    |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 汗かいて道をつけけり雪の朝 |
| 角 情熱や暑さに多少弱くとも   | 角 古といふ字石といふ字や神無月    | 角 炭屋消え炭団も失せて雪達磨 |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 石投げて古池割るる寒さかな     | 角 灰になり土に紛れて春を待つ |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 竹林の一番端の竹の凍て       |                 |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢     |                 |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 檻ごとに動物達の白き息       |                 |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                 |
| 角 天高し大手を振つて眉上げて  | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も      |                 |
| 角 シャクシャクと水の結晶梨噛る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                 |
| 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                 |

2024・11・25【角川俳句賞2025 A 711 全195句】 選27句

12行3段組14ボ 2024年11月25日 12:52 <1> 桐10

角 制服の中高一貫校の春

角 男爵の出世目出度し暮の秋

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 編集の加減乗除や文化祭

角 炭屋なく炭団なき世の雪達磨へ自己模倣

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 古といふ字石といふ字や神無月

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 投石に古池割るる氷かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 檻ごとに動物達の白き息

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 天高し大手を振って眉上げて

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

2024・11・25【角川俳句賞2025 A 712 全19句】 選24句

12行3段組14ポ 2024年11月25日 18:55 <1> 桐10

角 制服に中高一貫校の春 角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 編集の加減乗除や文化祭

角 情熱や少し暑さに弱くとも 角 投石に古池割るる氷かな

角 広島も長崎も炎天下なり 角 竹林の一番端の竹の凍て

角 山火事の迫りつつある大瀑布 角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 みんな家中電気で動く冬籠

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 天高し大手を振つて眉上げて 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 静動の石、竹、水や添水鳴る 角 中元のタオルセットよ年用意

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る 角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋 角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024・11・26【角川俳句賞2025 A 713 全208句】 選28句

12行3段組14ボ 2024年11月26日 12:36 へ1 へ桐10

|                  |                     |                  |
|------------------|---------------------|------------------|
| 角 制服に中高一貫校の春     | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 中元のタオルセットよ年用意  |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 男爵の出世目出度し薯の秋      | 角 紫も清も遊びし双六ぞ     |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 旅ゆけば雪また雪のユーラシア |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 五で割つて十一月に余り無き     | 角 灰になり土に紛れて春を待つ  |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 投石に古池割るる氷かな       |                  |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 竹林の一番端の竹の凍て       |                  |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢     |                  |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                  |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も      |                  |
| 角 天高し大手を振つて眉上げて  | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                  |
| 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                  |
| 角 シャクシャクと水の結晶梨噛る | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も    |                  |

2024・11・26【角川俳句賞2025 A 714 全218句】 選29句

12行3段組14ボ 2024年11月26日 20:10 へ1 桐10

|                  |                     |                     |
|------------------|---------------------|---------------------|
| 角 制服に中高一貫校の春     | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 中元のタオルセットよ年用意     |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 男爵の出世目出度し薯の秋      | 角 紫も清も遊びし双六ぞ        |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 福神のひいフウ、みいヨ、いつムウな |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 長旅の雪また雪のユーラシア     |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 投石に古池割るる氷かな       | 角 灰になり土に紛れて春を待つ     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 竹林の一番端の竹の凍て       |                     |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 雑草の生えたる植木鉢も枯れ     |                     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                     |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も      |                     |
| 角 天高し大手を振つて眉上げて  | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                     |
| 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                     |
| 角 シャクシャクと水の結晶梨噛る | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も    |                     |

2024・11・27【角川俳句賞2025 A 715 全249句】 選34句

12行3段組14ポ 2024年11月27日 18:41 へ1 桐10

|                   |                  |                       |
|-------------------|------------------|-----------------------|
| 角 制服に中高一貫校の春      | 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も        |
| 角 飾りある内の裏なる内裏雛    | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり        |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 シャクシャクと水の結晶梨噛る | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ   |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄     | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も      |
| 角 掘つて来し土龍に出会ふ蚯蚓かな | 角 男爵の出世目出度し薯の秋   | 角 中元のタオルセットよ年用意       |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも    | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 福神のひい、ふう、みい、よ、いつ、なむ |
| 角 広島も長崎も炎天下なり     | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ          |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 長旅の雪また雪のユーラシア       |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 古池に石投げて割る氷かな   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ       |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ  | 角 竹林の一番端の竹の凍て    | 角 難民が飛行機で来て木の実割る      |
| 角 夕立の昨日は降らず今日はまた  | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  |                       |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役    | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                       |

2024・11・28【角川俳句賞2025 A 716 全263句】 選32句

12行3段組14ボ 2024年11月28日 03:11 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 制服に中高一貫校の春     | 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 飾りある内の裏なる内裏雛   | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 シャクシャクと水の結晶梨噛る | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も     |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 中元のタオルセットよ年用意      |
| 角 掘つて来て土龍の穴に蚯蚓落つ | 角 男爵の出世目出度し薯の秋   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 長旅の雪また雪のユーラシア      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 竹林の一番端の竹の凍て    |                      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  |                      |
| 角 夕立の昨日ふらざる分をけふ  | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も   |                      |

2024・11・28【角川俳句賞2025 A 717 全275句】 選34句

12行3段組14ポ 2024年11月28日 11:09 へ1 桐10

|                   |                  |                      |
|-------------------|------------------|----------------------|
| 角 制服に中高一貫校の春      | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も       |
| 角 飾りある内の裏なる内裏雛    | 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄     | 角 シャクシャクと石細胞や梨嚙る | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も     |
| 角 蚯蚓の穴が土龍の穴に出くはしぬ | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 数へ日の残りの日々を大切に      |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも    | 角 男爵の出世目出度し薯の秋   | 角 中元のタオルセットよ年用意      |
| 角 広島も長崎も炎天下なり     | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 長旅の雪また雪のユーラシア      |
| 角 蛸壺の出るつもりなき出口かな  | 角 竹林の一番端の竹の凍て    | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ  | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  |                      |
| 角 夕立の昨日ふらざる分もけふ   | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

2024・11・28【角川俳句賞2025 A 718 全290句】 選34句

12行3段組14ポ 2024年11月28日 16:56 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 制服の中高一貫校の春     | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も       |
| 角 飾りある内の裏こそ内裏雛   | 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も     |
| 角 蚯蚓の道が土龍の穴の壁穿つ  | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 中元のタオルセットよ年用意      |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 数へ日の徒党を組んで来りけり     |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 長旅の雪また雪のユーラシア      |
| 角 蛸壺の出るつもりなき出口かな | 角 竹林の一番端の竹の凍て    | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  |                      |
| 角 夕立の昨日ふらざる分までも  | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

2024・11・29【角川俳句賞2025 A 719 全315句】 選38句

17行3段組14ボ 2024年11月29日 05:46 へ1 桐10

|                  |                      |                 |
|------------------|----------------------|-----------------|
| 角 新しき席と教室春の声     | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る     | 角 紫も清も遊びし双六ぞ    |
| 角 箱書の内と裏こそ内裏難    | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋       | 角 長旅の雪また雪のユーラシア |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋        | 角 本もまた雪崩れんとして春隣 |
| 角 大乘と自ら名乗る桜かな    | 角 編集の加減乗除や文化祭        | 角 灰になり土に紛れて春を待つ |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 五で割って十一月に余り無し      |                 |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 古池や石もて開く氷面鏡        |                 |
| 角 土龍の穴の壁に蚯蚓が貌を出す | 角 竹林の一番端の竹の凍て        |                 |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中     |                 |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |                 |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 みんな家中電気で動く冬籠       |                 |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も       |                 |
| 角 蛸壺の出るに出られぬ訳でなし | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |                 |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |                 |
| 角 夕立の昨日ふらざる分までも  | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も     |                 |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 中元のタオルセットよ年用意      |                 |
| 角 天高し大手を振って大手町   | 角 数へ日は怒濤のごとし碎け散る     |                 |
| 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |                 |

2024・11・29【角川俳句賞2025 A 丁20 全339句】 選38句

17行3段組14ボ 2024年11月29日 13:03 へ1 桐10

|                  |                      |                 |
|------------------|----------------------|-----------------|
| 角 新しき席と教室春の山     | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る     | 角 紫も清も遊びし双六ぞ    |
| 角 内といふ字裏といふ字や内裏雛 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋       | 角 長旅の雪また雪のユーラシア |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋        | 角 本もまた雪崩るる如し春隣  |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 編集の加減乗除や文化祭        | 角 灰になり土に紛れて春を待つ |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 五で割つて十一月に余り無し      |                 |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 古池や石もて開く氷面鏡        |                 |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 竹林の一番端の竹の凍て        |                 |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中     |                 |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |                 |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 みんな家中電気で動く冬籠       |                 |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も       |                 |
| 角 蛸壺の出るに出られぬ訳でなし | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |                 |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |                 |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も     |                 |
| 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 お中元のタオルセットよ年用意     |                 |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 数へ日が怒濤のごとく碎け散る     |                 |
| 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |                 |

2024・11・30【角川俳句賞2025 A 丁21 全365句】選43句

17行3段組14ポ 2024年11月30日 17:00 へ1 桐10

|                  |                     |                      |
|------------------|---------------------|----------------------|
| 角 新しき席と教室春の山     | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役      | 角 数へ日が怒濤のごとく碎け散る     |
| 角 客船は異国の春を伝へけり   | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る     | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る    | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 内といふ字裏といふ字や内裏難 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 長旅の雪また雪のユーラシア      |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 男爵の誉たまはる薯の秋       | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 東西の都、日暮の花の雨    | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 竹林の一番端の竹の凍て       | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 古池や石もて開く氷面鏡       | 角 本棚の我に雪崩るる春隣        |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中    |                      |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢     |                      |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も      |                      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                      |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も    |                      |
| 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 お中元のタオルセットよ年用意    |                      |

2024・12・1【角川俳句賞2025 A + 22 全38句】 選43句

17行3段組14ポ 2024年12月1日 22:22 へ1 桐10

|                  |                     |                      |
|------------------|---------------------|----------------------|
| 角 客船は祖国の春を伝へけり   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役      | 角 数へ日が怒濤のごとく碎け散る     |
| 角 新しき席と教室春の山     | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る     | 角 灯台は初日を受けて輝けり       |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る    | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 内と置き裏と続けて内裏難   | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 男爵の誉たまはる薯の秋       | 角 長旅の雪また雪のユーラシア      |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 都をば東に遷す花の雨     | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 竹林の一番端の竹の凍て       | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 古池や石もて開く氷面鏡       | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中    |                      |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢     |                      |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も      |                      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                      |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も    |                      |
| 角 天高し大手を振つて大手町   | 角 お中元のタオルセットの年用意    |                      |

|                  |                     |                      |
|------------------|---------------------|----------------------|
| 角 客船は異国の春を伝へけり   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役      | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 新しき席と教室春の山     | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る     | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 取り出だす内の裏なる内裏難  | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る    | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 長旅の雪また雪のユーラシア      |
| 角 電柱の丸き柱や春燈      | 角 男爵の誉たまはる薯の秋       | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 都をば東に遷す花の雨     | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 竹林の一番端の竹の凍て       | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 古池や石もて開く氷面鏡       |                      |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中    |                      |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢     |                      |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も      |                      |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 お中元のタオルセットの年用意    |                      |
| 角 天高し大手を振れば大手町   | 角 灯台は神の依代初日の出       |                      |

2024・12・31【角川俳句賞2025 A 124 全418句】 選43句

17行3段組14ポ 2024年12月3日 13:34 へ1 桐10

|                  |                     |                      |
|------------------|---------------------|----------------------|
| 角 村人は別の名で呼ぶ春の山   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役      | 角 灯台は白い依代初日の出        |
| 角 新しき席と教室春の山     | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る     | 角 福神のひいふう、みいよ、いつもう、な |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る    | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 男爵の誉たまはる薯の秋       | 角 長き長き雪の列車をユーラシア     |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 編集の加減乗除や文化祭       | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 ひんがしへ都を遷す花の雨   | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 吹きすさぶ気圧の谷の寒さかな    | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 竹林の一番端の竹の凍て       | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 古池や石もて開く氷面鏡       |                      |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中    |                      |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢     |                      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 みんな家中電気で動く冬籠      |                      |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も      |                      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり      |                      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 お中元のタオルセットの年用意    |                      |

2024・12・9【角川俳句賞2025 A + 25 全42句】 選46句

17行3段組14ポ 2024年12月6日 09:42 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 暖かや前足のある赤ん坊    | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 ひねられし蒟蒻のあるおでんかな    |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 シャクシャクと石細胞の梨噛る | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 灯台は白い依代初日の出        |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 ひんがしへ都を遷す花の列   | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車をユーラシア     |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 竹林の一番端の竹の凍て    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る    |                      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 水圧の中に大きな鯨かな    |                      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も   |                      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり   |                      |

2024・12・9【角川俳句賞2025 A + 26 全43句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月6日 18:13 へ1 桐10

|                  |                   |                      |
|------------------|-------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 秋晴の大手を振つて大手町    | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る        |
| 角 暖かや前足のある赤ん坊    | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲    | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役    | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も       |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋    | 角 ひねられし蒟蒻のあるおでんかな    |
| 角 ひんがしへ都を遷す花の列   | 角 男爵の誉たまはる薯の秋     | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 編集の加減乗除や文化祭     | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 五で割つて十一月に余り無し   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ラーメンのスープ飲み干す神無月 | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 丁度いい感じの十二月始め    | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな   | 角 長き長き雪の列車をユーラシア     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 竹林の一番端の竹の凍て     | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 古池や石もて開く氷面鏡     | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中  | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 みんな家中電気で動く冬籠    |                      |

2024・12・7【角川俳句賞2025 A + 27 全44句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月7日 13:27 へ1 桐10

|                  |                   |                      |
|------------------|-------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 秋晴の大手を振つて大手町    | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る        |
| 角 暖かや前足のある赤ん坊    | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲    | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役    | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も       |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る  | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 大乘を自ら唱ふ桜かな     | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋    | 角 蒟蒻に手の込んであるおでんかな    |
| 角 ひんがしへ都を遷す花の列   | 角 男爵の誉たまはる薯の秋     | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 編集の加減乗除や文化祭     | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 五で割つて十一月に余り無し   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ラーメンのスープ飲み干せ神無月 | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 丁度いい感じの十二月始め    | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな   | 角 長き長き雪の列車のユーラシア     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 竹林の周辺に立つ竹の凍て    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 古池や石もて開く氷面鏡     | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中  | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 みんな家中電気で動く冬籠    |                      |

2024・12・∞【角川俳句賞2025 A + 28 全457句】 選51句

17行3段組14ポ 2024年12月8日 05:09 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 暖かや前足のある赤ん坊    | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 みんな家中電気で動く冬籠       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る        |
| 角 入学の教室のみな見ず知らず  | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も       |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 広島も長崎も炎天下なり    | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 福神のひいふう、みいよ、いつもう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 丁度いい感じの十二月始め   | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車のユーラシア     |
| 角 縦書の均等割の涼しさよ    | 角 竹林の近くの竹の凍てて立つ  | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 夕立や昨日ふらざる分までも  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 本堂も仏も枯れて静けさよ   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |

2024・12・∞【角川俳句賞2025 A + 29 全47句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月8日 23:27 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 暖かや前足のある赤ん坊    | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 長き長き雪の列車のユーラシア     |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 縦書の均等割の涼しさよ    | 角 本堂も仏も枯れて静けさよ   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 冷房のビル、家、車、広島よ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 みんな家中電気で動く冬籠   | 角 入学の教室の皆見ず知らず       |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る    | 角 竹林に外れし竹の凍てて立つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 大いなる水圧おほいなる鯨   | 角 寒し寒し風吹く中の寒の雨       |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も   |                      |

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る        |
| 角 暖かや前足のある赤ん坊    | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も       |
| 角 入学の教室の皆見ず知らず   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 情熱や少し暑さに弱くとも   | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車のユーラシア     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 竹林に外れし竹の凍てて立つ  | 角 寒し寒し風吹く中の寒の雨       |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 古池や石もて開く水面鏡    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 縦書の均等割の涼しさよ    | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 本堂も仏も枯れて静けさよ   | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

2024・12・9【角川俳句賞2025 A + 30 全49句】 選49句

17行3段組14ポ 2024年12月9日 15:39 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る        |
| 角 暖かや前足つかふ赤ん坊    | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨噛る | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も       |
| 角 入学の教室すべて見ず知らず  | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 お中元のタオルセットの年用意     |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄    | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 縦書の均等割の涼しさよ    | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 本堂も仏も枯れて風強し    | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  |                      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

|                   |                  |                      |
|-------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島   | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来よ        |
| 角 暖かや前足つかふ赤ん坊     | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛    | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 入学の子らよおほかた見ず知らず | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上  | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルも出して年用意      |
| 角 切株の丸く残りし春日かな    | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 年惜しむべく読み返す書ありけり    |
| 角 電柱の柱は丸し春燈       | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ   | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな   | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 縦書の均等割の涼しさよ     | 角 古池や石もて開く水面鏡    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ  | 角 本堂も仏も枯れて風強し    | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ       |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲    | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

2024・12・10【角川俳句賞2025 A 丁32 全52句】 選49句

17行3段組14ポ 2024年12月10日 20:23 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島  | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 暖かや前足つかふ赤ん坊    | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 入学やまだどの顔も見ず知らず | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルもいざや年用意      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 年惜しむべく読み返す書ありけり    |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 古池や石もて開く水面鏡    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 本堂も仏も枯れて風強し    | 角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   |                      |

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは春浅き鬼ヶ島  | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る  | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 暖かや赤子四つ足にて進む   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよいぎや年用意      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 年惜しむべく読み返す書ありけり    |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 古池や石もて開く水面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 本堂も仏も枯れて風強し    | 角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |
| 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役   | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   |                      |

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ       |
| 角 暖かや赤ちやん四つ足で進む  | 角 役割の石、竹、水や添水鳴る  | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよいぎや年用意      |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 年惜しむべく読み返す書ありけり    |
| 角 薫風に集うてみたき街路燈   | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 本堂も仏も枯れて風強し    | 角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ      |
| 角 秋晴や漢字と仮名を携へて   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 爽やかやテニヲハといふ潤滑油 | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

2024・12・13【角川俳句賞2025 A 135 全575句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月13日 13:25 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 協力し水、竹、石の添水鳴る  | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ       |
| 角 暖かや赤子は四つ足に進化   | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 大いなる水圧おほいなる鯨       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 その辺に助詞の如くに地虫出づ | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよいぎや年用意      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 年惜しむべく読み返す古日記      |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 灯台は年中無休去年今年        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 秋の夜の漢字と仮名と英数字  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 本堂も仏も枯れて風強し    | 角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ      |
| 角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油 | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢  | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |

2024・12・13【角川俳句賞2025 A 丁36 全575句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月13日 17:03 へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり       |
| 角 その辺に助詞の如くに地虫出づ | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 本堂も仏も枯れて風強し        |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよいぎや年用意      |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 年惜しむべく読み返す古日記      |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 灯台は年中無休去年今年        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 秋の夜の漢字と仮名と英数字  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 みんな家中電気で動く冬籠   | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油 | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 大いなる水圧おほいなる鯨   |                      |

2024・12・14【角川俳句賞2025 A 丁37 全58二句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月14日 10:21へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり     |
| 角 その辺に助詞の如くに地虫出づ | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 本堂も仏も枯れて風強し        |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよいぎや年用意      |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台の直立不動初日浴ぶ        |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 大方はこの家この部屋老の春      |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 秋の夜の漢字と仮名と英数字  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 みんな家中電気で動く冬籠   | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油 | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 大いなる水圧おほいなる鯨   |                      |

2024・12・15【角川俳句賞2025 A 138 全58句】選50句

17行3段組14ポ 2024年12月15日 13:26へ1 桐10

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり     |
| 角 その辺に助詞の如くに地虫出づ | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 本堂も仏も枯れて風強し        |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよいぎや年用意      |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台の直立不動初日浴ぶ        |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 大方はこの家この部屋老の春      |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 秋の夜の仮名と漢字と英数字  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹の寒し   | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 みんな家中電気で動く冬籠   | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油 | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 おほいなる水圧おほいなる鯨  |                      |

|                  |                  |                      |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 その辺に助詞の如くに地虫出づ | 角 編集の加減乗除や文化祭    | 角 水圧に咆哮もなし大海鼠        |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 本堂も仏も枯れて風の音        |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学児 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよ、いざや年用意     |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台の直立不動初日浴ぶ        |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 この先はこの家この部屋老の春     |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 秋の夜の仮名と漢字と英数字  | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹寒し    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな       |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 みんな家中電気で動く冬籠   | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油 | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり |                      |

2024・12・20【角川俳句賞2025 A 丁41 全62句】選49句

17行3段組14ポ 2024年12月20日 06:47 へ1 桐10

|                   |                  |                      |
|-------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島   | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲   | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり     |
| 角 春なれや助詞の如くに地虫出づ  | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛    | 角 編集の加減乗除や文化の日   | 角 沈黙の圧縮されし海鼠かな       |
| 角 雛壇の段差に厳と階級差     | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ        |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学児  | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上  | 角 男爵の誉たまはる薯の秋    | 角 中元のタオルよ、いざや年用意     |
| 角 電柱の柱は丸し春燈       | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 東京に関東に初茜かな         |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に   | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな  | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中 | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 秋の夜の仮名と漢字と英数字  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな   | 角 五で割つて十一月に余り無し  | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな  | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ  | 角 竹林の外側に立つ竹寒し    | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ   | 角 古池や石もて開く氷面鏡    | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ     | 角 みんな家中電気で動く冬籠   |                      |
| 角 爽やかにテニヲハを書き直さるる | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ   |                      |

2024・12・20【角川俳句賞2025 A 142 全633句】 選49句

17行3段組14ポ 2024年12月20日 13:32 へ1 桐10

|                  |                    |                      |
|------------------|--------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島  | 角 爽やかにテニヲハを書き直さるる  | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり     |
| 角 日本語に助詞助動詞や地虫出づ | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲     | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛   | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る   | 角 沈黙の圧縮されし海鼠かな       |
| 角 雛壇の段差に頑と身分の差   | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る   | 角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ        |
| 角 見ず知らずの同じ年ごろ入学児 | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋     | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋      | 角 中元のタオルよ、いざや年用意     |
| 角 電柱の柱は丸し春燈      | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり   | 角 東京に関東に初茜かな         |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな     | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中   | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏     | 角 五で割つて十一月に余り無し    | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな  | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月   | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布  | 角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴    | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 竹林の外側に立つ竹寒し      | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ  | 角 古池や石もて開く氷面鏡      | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ    | 角 みんな家中電気で動く冬籠     |                      |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町   | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ     |                      |

2024・12・22【角川俳句賞2025 A 丁43 全642句】 選49句

17行3段組14ポ 2024年12月22日 06:40 へ1 桐10

|                   |                    |                      |
|-------------------|--------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島   | 角 爽やかにテニヲハで句の蘇る    | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 日本語に助詞や助動詞、地虫出づ | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲     | 角 沈黙の圧縮されし海鼠かな       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛    | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る   | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 雛壇の段差に頑と身分の差    | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋     | 角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ        |
| 角 入学の教室の皆みずしらず    | 角 男爵の誉たまはる薯の秋      | 角 中元のタオルよ、いざや年用意     |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上  | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る   | 角 東京に関東に初茜かな         |
| 角 電柱の柱は丸し春燈       | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな     | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に   | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり   | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな  | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中   | 角 新年の石もて開く氷面鏡        |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 五で割つて十一月に余り無し    | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな   | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月   | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ  | 角 竹林の外側に立つ竹寒し      | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ   | 角 みんな家中電気で動く冬籠     | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ     | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ     |                      |
| 角 秋晴に大手を振つて大手町    | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり   |                      |

|                   |                     |                      |
|-------------------|---------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島   | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲      | 角 沈黙を圧縮したる海鼠かな       |
| 角 日本語に助詞や助動詞、地虫出づ | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛    | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ        |
| 角 雛壇の段差に頑と身分の差    | 角 男爵の誉たまはる薯の秋       | 角 中元のタオルよ、いざや年用意     |
| 角 入学の教室の皆みずしらず    | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る    | 角 東京に関東に初茜かな         |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな      | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 電柱の柱は丸し春燈       | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり    | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に   | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中    | 角 新年の石もて開く氷面鏡        |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月    | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな   | 角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな  | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな     | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 竹林の外側に立つ竹寒し       | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ   | 角 みんな家中電気で動く冬籠      | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ     | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ      |                      |
| 角 秋晴に大手を振つて大手町    | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり    |                      |
| 角 爽やかにテニヲハで句の蘇る   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                      |

2024・12・25【角川俳句賞2025 A 丁45 全658句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月25日 06:55 へ1 桐10

|                   |                     |                      |
|-------------------|---------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島   | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲      | 角 沈黙を圧縮したる海鼠なり       |
| 角 日本語に助詞や助動詞、地虫出づ | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る    | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛    | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋      | 角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ        |
| 角 雛壇の段差に頑と身分の差    | 角 男爵の誉たまはる薯の秋       | 角 中元のタオルよ、いぎや年用意     |
| 角 入学の教室の皆みずしらず    | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る    | 角 東京に関東に初茜かな         |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上  | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな      | 角 凡々と鳴る年越の掛時計        |
| 角 電柱の柱は丸し春燈       | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり    | 角 白をもて鶴鳴き渡る初御空       |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に   | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中    | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな  | 角 五で割つて十一月に余り無し     | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月    | 角 新年の石もて開く氷面鏡        |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな   | 角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな  | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな     | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 竹林の外側の竹寒々と        | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ   | 角 みんな家中電気で動く冬籠      | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ     | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ      | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 秋晴に大手を振つて大手町    | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり    | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 爽やかにテニヲハで句の蘇る   | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |                      |

2024・12・27【角川俳句賞2025 A 丁46 全653句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月27日 19:18 へ1 桐10

|                   |                    |                      |
|-------------------|--------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島   | 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲     | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ  |
| 角 日本語に助詞や助動詞、地虫出づ | 角 息合うて水、竹、石の添水鳴る   | 角 沈黙を圧縮したる海鼠なり       |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏雛    | 角 蠅螂の硬きは目玉、柔な腹     | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢      |
| 角 雛壇の段差に頑と身分の差    | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋     | 角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ        |
| 角 入学の教室の皆みずしらず    | 角 男爵の誉たまはる薯の秋      | 角 中元のタオルよ、いざや年用意     |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上  | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る   | 角 凡凡と鳴る年越の掛時計        |
| 角 電柱の柱は丸し春燈       | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな     | 角 東京に関東に初茜かな         |
| 角 花は葉に赤子は早も四つ足に   | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり   | 角 白をもて鶴鳴き渡る初御空       |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな  | 角 ミサイルのいまは露けき筒の中   | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 万葉の裔の百葉箱の夏      | 角 五で割つて十一月に余り無し    | 角 紫も清も遊びし双六ぞ         |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな   | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月   | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も     |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布   | 角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな | 角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本      |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴     | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな    | 角 長き長き雪の列車よユーラシア     |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ   | 角 竹林をはみ出して寒々と揺れ    | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ      |
| 角 縦書の均等割の涼しけれ     | 角 みんな家中電気で動く冬籠     | 角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ      |
| 角 秋晴に大手を振つて大手町    | 角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ     | 角 灰になり土に紛れて春を待つ      |
| 角 爽やかなテニヲハに句の蘇る   | 角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり   |                      |